

社会実験・モデル事業（案）について

○社会実験・モデル事業として、以下の3つの事業を実施する。

1. 自転車通行空間確保社会実験

- （都）吉前線において、自転車本来の通行空間である車道内に通行空間を明示し、効果を検証する。
- 車道の停車帯に青のラインを引き、車道での自転車の安全性を確保することにより、自転車に車道を選択してもらい、歩行者の安全を確保する。
- 交差点内部には矢羽根を設置し、自転車通行空間を連続的に確保する。

2. 交通安全教育モデル事業

- 社会実験にあたり、ハード・ソフト連携した取組みとして、実施路線近辺を対象に交通安全教育をモデル事業として実施する。
- 社会実験対象路線の周辺で、幅広い市民を対象に自転車の通行ルールの周知、交通安全意識の醸成のための取組みを行う。

3. 自転車走りやすさマップ作成モデル事業

- 県境地域で実施している通勤環境改善のための取組みとあわせ、自転車通勤マップを作成し、配布する。
- 自転車通勤者へ危険箇所、立ち寄り施設等の有用な情報を提供することによって、より安全、快適に自転車通勤を行なってもらうとともに、自動車利用者へ自転車通勤の良さを伝えることにより、自動車から自転車への転換を促す。

スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
自転車通行空間確保社会実験					実施	
交通安全教育モデル事業				実施		
自転車走りやすさマップ作成モデル事業			配布			

1. 自転車通行空間確保社会実験について

1.1 社会実験の概要

(1) 実施目的

- 歩行者と自転車の安全を確保し、自転車が通行しやすい環境を整備するため、自転車本来の通行空間である車道内に自転車通行空間を整備する。
- 自転車の通行空間においては、自転車の車道走行における利便性および安全性を高めることにより、これまで歩道を通行していた自転車に、本来の通行空間である車道を選択してもらう。
- この自転車通行空間の確保により、以下に挙げた項目が達成されることを目的とする。

- 歩道における歩行者等の安全確保
- 自転車利用者の安全確保
- 自転車利用の快適性向上

(2) 実施路線

- 市道菰口町・高洲町 14 号線（都市計画道路 吉前線）



(3) 整備形態

- 停車帯に青いラインを引き、自転車のピクトを設置する。
- 交差点では矢羽根を設置し、自転車の通行位置を示す。



(4) 実施時期

- 平成 25 年 11 月～
10 月後半から、路面へのライン、ピクト等施工予定であり、施工後実験開始予定。

1.2 整備形態と安全対策

(1) 単路部

- 車道外側線の外側の路側帯部分の車道上に、自転車通行空間を設置し、自転車通行空間の幅員は側溝部分を含めて1,500mmとする
- ピクトグラムや路面の一部カラー化等により、自転車利用者に「車道通行が原則」や「車道の逆走は禁止」などのルールを遵守した通行をしてもらう。

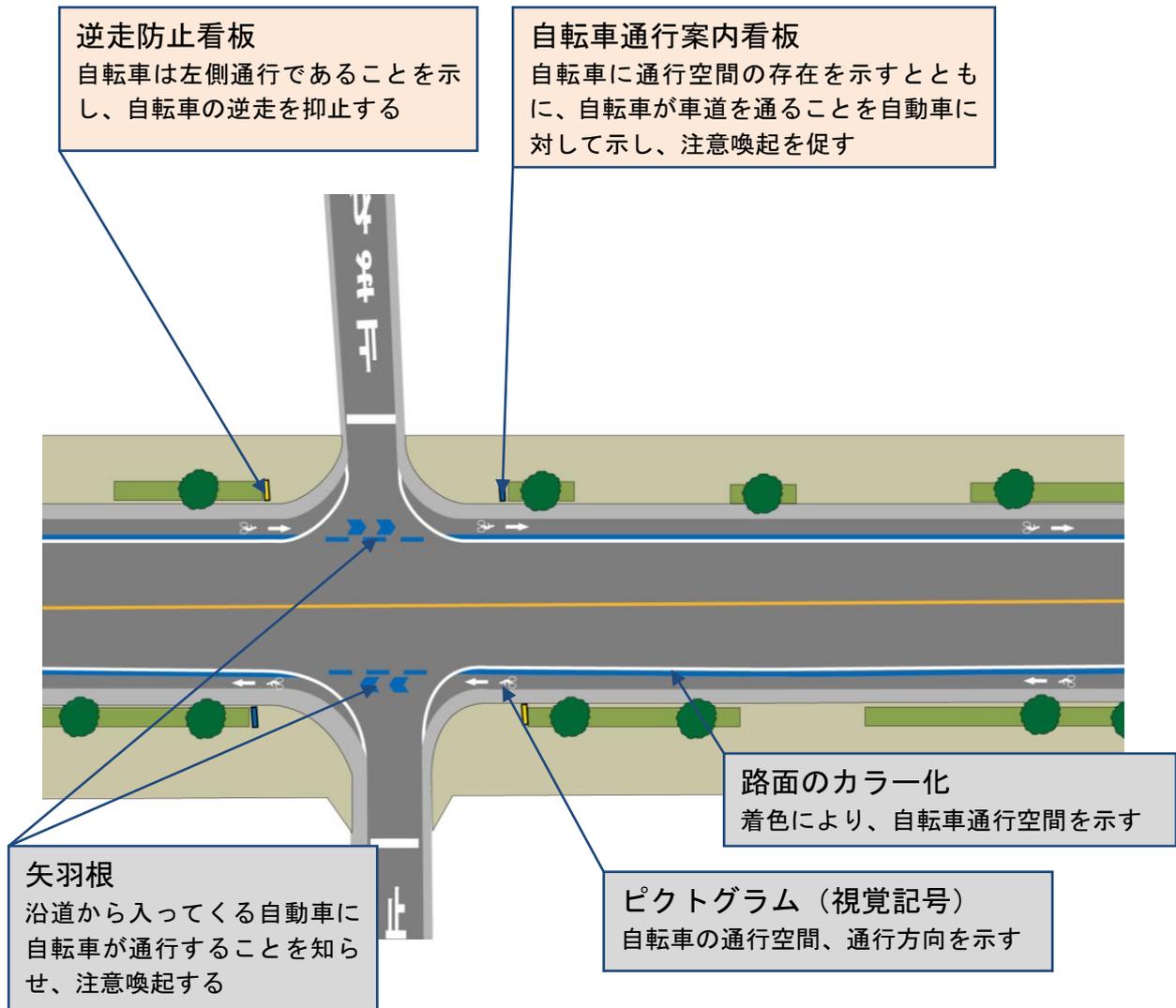


図 自転車通行空間イメージ図 (単路部)

(2) 交差点部分

- 交差点部分に右折レーンがある場合、車道外側線の外側に自転車通行空間の設置ができない。その際は、ガイドラインに示された通り、左直車線を自動車と共有し、車道上を通行することとする。
- 路面への矢羽根の表示、注意喚起看板の設置により、主に自動車ドライバーに対して、自転車と共有レーンであることを示し、注意喚起を促す。
- 交差点内は横断歩道を通らず、自動車同様に直線的に横断するように矢羽根で自転車の通行位置を示す。(自転車横断帯がある場合には削除する必要がある。)

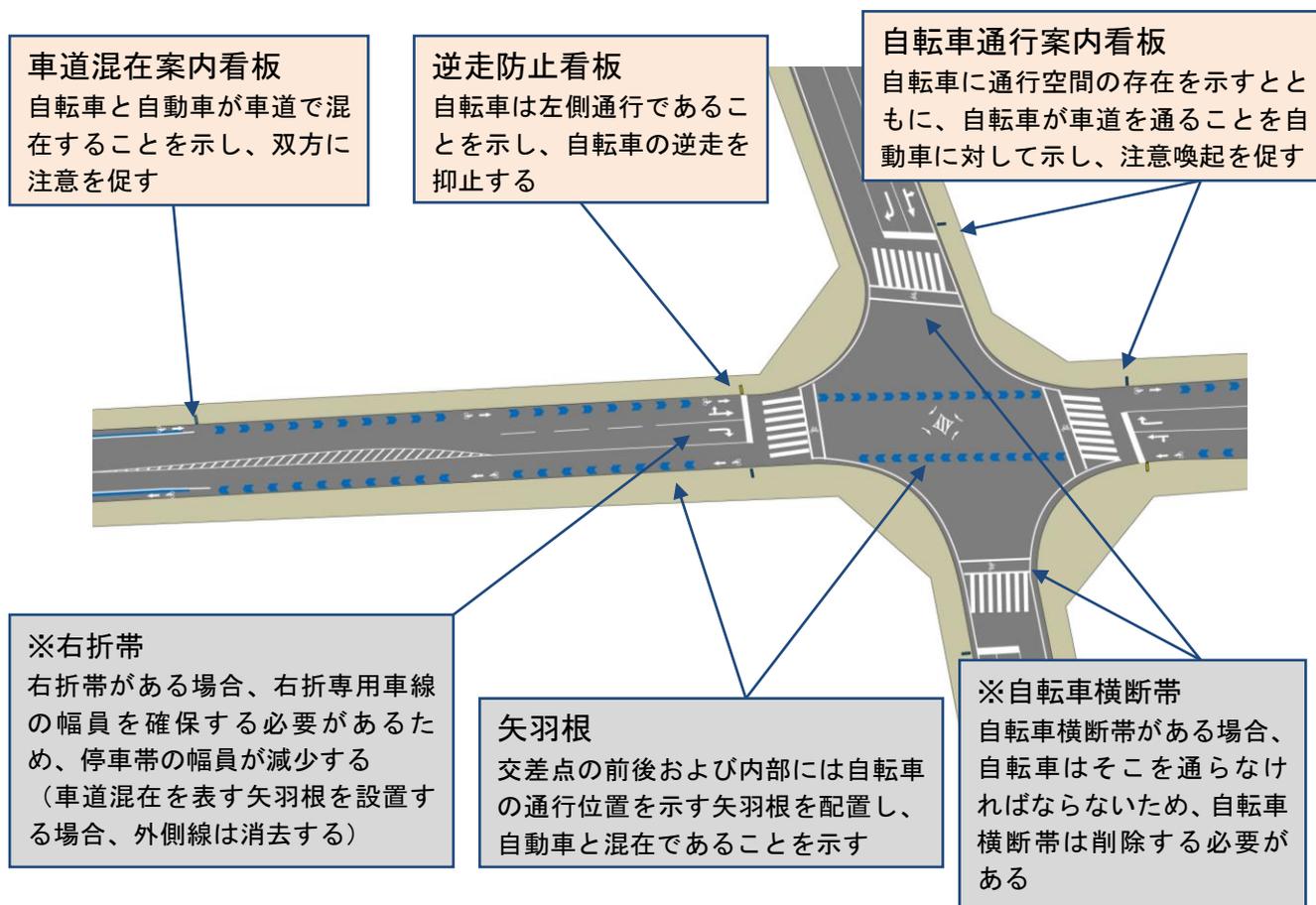


図 自転車通行空間イメージ図(交差点部)

ピクトグラム・注意喚起看板のイメージ



1.3 検証方法

○自転車通行空間整備による効果の把握、今後の自転車通行空間整備の全市的な展開時の整備の方針、留意事項を把握することを目的として検証を行う。

(1) 検証項目

○検証においては、以下の点を確認する。

- 自転車の利用者数に変化はあったか
- 自転車利用者はどこを通行したか
- 事前よりも安全性・快適性は向上されたか
- 整備形態に問題点、改善すべき点はあるか
- 危険な動き、注意すべき動きはなかったか

(2) 検証方法

○上記の検証項目を把握するため、以下の検証を実施する。

検証項目	検証方法	対象	備考
自転車の利用者数に変化はあったか	交通量調査	自転車利用者	
自転車利用者はどこを利用したか	交通量調査 ビデオ調査	自転車利用者	
事前よりも安全性・快適性は向上されたか	アンケート	自転車利用者 自動車利用者 沿道住民	※沿道住民アンケート、学校アンケートを実施
整備形態に問題点、改善すべき点はあるか	アンケート ビデオ撮影	自転車利用者 自動車利用者 沿道住民	※沿道住民アンケート、学校アンケートを実施
危険な動き、注意すべき動きはなかったか	ビデオ撮影	自転車利用者 自動車利用者	

○検証は以下の方法を用いることを想定している。

- ・交通量調査： 1断面 12時間 1回
※実験前のデータは昨年度結果を活用
- ・アンケート： 沿道住民アンケート（郵送回収）
学校アンケート・・・吉田方中、豊橋西高
- ・ビデオ撮影： 2時間程度（朝、夕）、2日程度（実験前、実験中）

1.4 広報方法

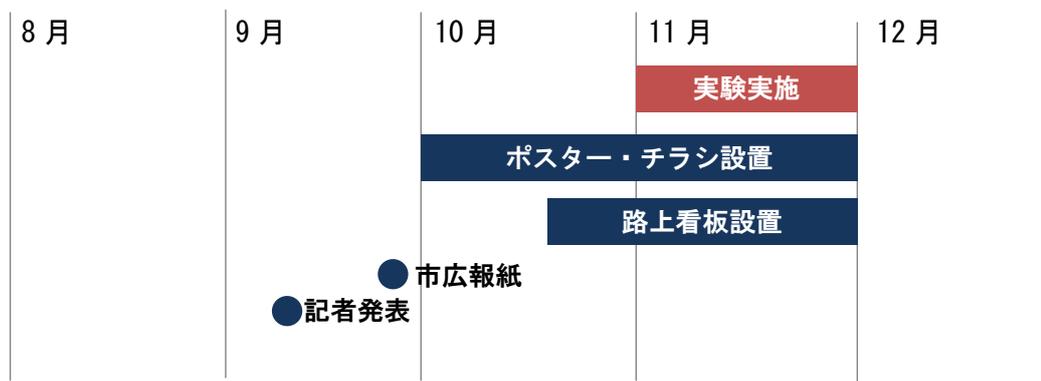
(1) 広報方法

○社会実験の事前広報として、以下の方法を実施する。

ポスター	公共施設、商業施設、駐輪場、沿道掲示板等に設置
チラシ	沿道住宅への配布、公共施設への設置
路上看板	実験路線、実験路線近隣の道路への設置。 実験前、実験期間中の2種類の設置
市広報誌	実験前に実験実施の周知、自転車は車道通行が原則であることの周知
メディアへの投げ込み	新聞、ケーブルテレビへの記者発表、投げ込みの実施

(2) 広報スケジュール

○広報スケジュール案は以下のとおりである。



2. 交通安全教育モデル事業について

2.1 目的

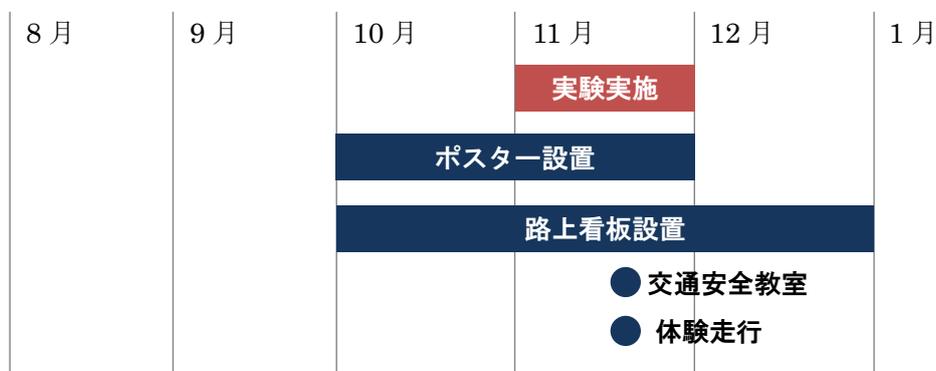
- 社会実験にあたり、ハード・ソフト連携した取組みとして、実施路線近辺を対象に交通安全教育をモデル事業として実施する。
- 社会実験対象路線の周辺で、幅広い市民を対象に自転車の通行ルールの周知、交通安全意識の醸成のための取組みを行う。

2.2 実施内容

- 沿道の学校において交通安全教室を実施するとともに、ポスター等で交通安全意識、マナー意識を向上させる。

実施取組み	実施内容	実施場所
小学校、中学校、高校における交通安全教室等の実施	小学校、中学校、高校において、社会実験実施期間とあわせて <u>交通安全教室</u> を実施	吉田方小学校 吉田方中学校 豊橋西高校
商業施設等と連携した交通安全の広報	社会実験対象路線沿道の店舗等に交通安全の <u>ポスター</u> を設置	ドミー JA 豊橋産直プラザ吉田方 ローソン セブン-イレブン 豊橋吉川郵便局
路上における交通安全の広報	路上への <u>交通安全周知看板</u> を設置	吉前線
整備区間の体験走行	学校での交通安全教室において、整備区間の <u>体験走行</u> を実施	吉田方中学校 豊橋西高校

2.3 実施スケジュール



3. 走りやすさマップの作成について

3.1 マップ作成の概要

- 県境地域で実施している通勤環境改善のための取組みとあわせ、自転車通勤を支援するマップを作成し、配布。
- 作成にあたり、県境地域の事業所（日東電工(株)、アスモ(株)）の自転車通勤者に対しアンケートを実施。
- 配布対象は、県境地域において通勤環境改善の取組みに協力いただいている事業所全てに配布。（5,000 部程度を予定）
- 配布時期は 9 月頃を予定している。

3.2 マップ作成の目的

- 自転車通勤者へ危険箇所、立ち寄り施設等の有用な情報を提供することにより、より安全、快適に自転車通勤を行なってもらおう。
- 自動車利用者へ、自転車通勤の良さを伝えることにより、自動車から自転車への転換を促す。

3.3 マップへの記載内容（案）

- マップのデザイン、記載内容は今後検討予定であるが、現在は、2つのマップ作成の目的を達成するため、以下のような項目を候補として考えている。

地図上	危険箇所	・アンケート結果をもとに、危険箇所を記載。
	坂道となっている区間	・国土地理院の地図で勾配を調べ、3%以上、5%以上の2段階程度で分類。
	走りやすい区間	・アンケート結果にて走りやすいと評価された区間を記載。
	自動車の交通量が多い区間	・国道1号など自動車の交通量が多く、自転車の走行には向かない区間を記載。
	施設	・アンケート結果をもとに、トイレやコンビニ等自転車通勤時に知っておくと有効な施設を記載。
地図以外	自転車通勤のメリット	・健康や環境、業務の効率化など、自転車通勤のメリットを記載。
	自転車通勤の始め方	・自転車の選び方、身に付ける装備、駐輪場等自転車通勤を快適にするために、必要な知識を記載。
	自転車通行時のルール	・自転車のルール5原則など、自転車利用時の交通ルール、マナーを記載。
	自転車の整備の仕方	・自転車の空気圧など日常的に行ったほうがよい基本的なメンテナンスの項目について記載。
	対象事業者の自転車通勤状況	・対象の事業者の自転車通勤の割合、それによって削減できているCO2排出量等を記載。

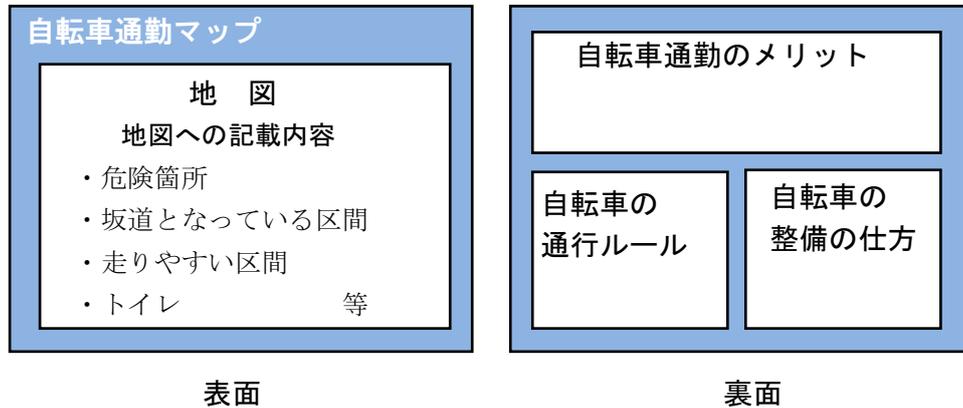
3.4 マップ作成の範囲

○マップ作成の範囲は県境地域を中心とするが、詳細は事業所の自転車通勤者に対するアンケート結果を参考に決定する予定。



図 県境地域とアンケート範囲

3.5 マップの作成イメージ



3.6 作成スケジュール

